

学校教育目標	高い志を持ち、地域に貢献し、主体的に生きる生徒の育成		めざす生徒像	・互いのよさや違いを認め合い、共に伸びる生徒 ・人のためになる行動ができる生徒 ・学びを生かし、他者と協力し、目標に向かって挑戦し続ける生徒							
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための具体的方策	評価指標	目標値	中間達成値	達成度	中間評価	最終達成値	達成度	最終評価	○成果 ●課題
「高い志」の基盤となる広い視野を持つために	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立 ・基礎基本的な学習内容の定着 ・ICT環境の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣(起床・就寝、学習開始時刻:3点固定)の確立(Daily ライフの活用、教育相談) ・家庭学習の習慣化と自主学習ノート(継続ノート)の内容充実(学習時間週10時間以上、毎日30分以上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・3点固定ができている生徒の割合(80%) ・継続ノート・Daily ライフ提出率(85%) 	80	65.1	81%	3	62.8	79%	3	<ul style="list-style-type: none"> ●肯定的な回答の割合は約65%で、昨年度に比べやや減少している。一方で、個別に見たときに大きな変化は見られないため、自分の生活をより厳格に評価しているとも捉えられる。 ・肯定的な回答をした割合は、学年間比較では同程度、経年比較では僅かに減少している。 ●継続ノート、Daily ライフを毎日提出しているという回答は、中間評価時より増えたものの約77%に留まり、目標値に達しなかった。未提出者の固定化が課題である。 ○79%が目標時間以上の家庭学習をしており、最も肯定的な回答は約49%に達している。 ○数学の家庭学習や計算練習にほぼ毎日取り組んでいるという回答は約65%に上る。その内、約30%が最も肯定的な回答をしており、継続的な学習習慣が身に付いてきている。 ●基礎学力については、全国学力・学習状況調査や業者テストの全国平均値と比較すると特に1、3年生で下回っており、依然として課題がある。(標準学力調査の結果は未返却) ○GIGA スクール構想の実現に向けて、全ての教員が授業内外の教育活動において、ICTの効果的な活用の仕方を日々模索、研究しており、一人3例以上の新規活用事例を蓄積した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・数学の学力向上(基礎的な知識の定着と計算技能の向上) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「標準学力調査」の分析による個人内経年変化の向上(80%) 	80	未実施	—		結果未返却	—		
		<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導等におけるICT活用(教科研究・経営、内容定着) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科指導等におけるICTの新規の活用(各教諭が3例以上) 	3例以上	—	—		3例以上	100%		
		<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の充実 ・「主体的・対話的で深い学び」の実践 ・グローバル・マインドの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・協調学習の実践(各教諭が年3回以上、発話記録3回、振り返りによる自己評価1回) ・総合的な学習の時間における「資質・能力」の育成 ・「学びに向かう力・人間性等」の重点指導 	80	—	—		3回以上	100%		
地域に貢献するために	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高12年間の連携教育 ・ボランティア活動の実践 ・防災教育を通じた地域連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流活動・連携(協調学習、学校行事、生徒指導等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・加計小との連携行事～後輩を育てようとする肯定的割合(80%) 	80	91.6	115%	4	—	—	4	<ul style="list-style-type: none"> ○小中連携の一貫として11月9日に小6体験入学を行った。2年生が中心となり、実際の中学校生活の様子を紹介したり、一緒に部活動体験をしたりすることができた。また、日頃から音楽科や保健体育科での乗り入れ授業や特別支援教育で、連携教育を推進している。 ○今年度も加計高校との連携行事を計画的に実施している。加計高校の教育内容や校風を肯定的に捉えている生徒が多く、同校への連携型入試を希望する生徒も増加している。中高乗り入れ授業は、昨年までの数学科に加え、理科、保健体育科でも実施している。 ○夏季休業中に地域清掃活動を、2学期には2・3年生縦割りグループでの地域貢献活動を行った。地域での清掃活動や福祉施設等でのボランティアを通じて、地域の現状や住民の方々への理解が深まり、安芸太田町の維持発展に貢献したいという思いが高まっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・加計高校との連携型中高一貫教育(合同学校行事、進路指導、キャリア教育等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・加計高校との連携行事～加計高生の良さを認める肯定的割合(80%) 		100(3年)	125%		100(3年)	125%		
		<ul style="list-style-type: none"> ・地域や関係機関との連携による地域貢献活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に貢献する活動～自己有用感の向上肯定的割合(80%) 		93.1(2・3年)	116%		96.2(2・3年)	120%		
主体的に生きるために	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的活動の充実 ・学校行事、生徒会活動の充実 ・キャリア教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「加計中六訓」と「ノーチャイム行動」の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノーチャイム行動の自己評価達成度の割合(80%) 	80	88.3	110%	4	90.7	113%	4	<ul style="list-style-type: none"> ○チャイムに頼らず、自分で時計を見ながら行動する習慣が身に付いている。90%以上の生徒が自分で時間を見ながら行動していると答えており、自律心が養われている。 ○運動会や文化祭、修学旅行等の行事の度に、一人一人に事前の目標を立てさせ、活動の見直しをもたせた。また、行事後のふり返りを綿密に行い、常に目標の達成度合い等を自己評価させた。その結果、中間評価時に比べ肯定的回答が大幅に上昇し、約95%に達している。 ○無言掃除を意識して、ほとんどの生徒が真剣に清掃活動に取り組んでいる。昼休憩には環境委員の呼びかけによる清掃ボランティアを実施し、多くの生徒が自主的に参加している。 ●中間評価時に比べ、無言掃除やプラスアルファへの取組への肯定的回答は減少している。 ○年間を通じて中高連携の機会を設け、生徒、教職員共に積極的に交流を行なった。(5回以上)高校の総合学習の発表会に生徒、教職員が参加し、活用内容への興味・関心を深めた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の4視点による行事や体験活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や体験活動後の生徒アンケートの満足度や達成度等の割合(80%) 		88.3	110%		95.4	119%		
		<ul style="list-style-type: none"> ・無言掃除への取組・無言掃除への取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・無言掃除の充実感(80%) 		97.7	122%		90.7	113%		
		<ul style="list-style-type: none"> ・中高連携教育と金融教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・加計高校との進路に係る情報提供(年5回以上) 		年5回以上	5回以上		100%	5回以上		100%
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の充実 ・体力づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育的行事や部活動の内容の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果の向上(昨年度を上回る) 	昨年度以上	全員	100%	4	—	—	4	<ul style="list-style-type: none"> ○4月末に体力テストを実施した。昨年度は全国比で男子が平均を下回ったのに対し、女子は平均を上回った。個々の経年比較で見ると、実施生徒の全数で記録が向上した。 ○各部活動では、どの生徒も意欲的に活動している。各大会では複数の種目で団体・個人の入賞があり、県大会にも出場した。駅伝に向けての取組では、8割の生徒が参加した。
		<ul style="list-style-type: none"> ・健康で安全な生活を送るための指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘した学習(年5回以上) 	年5回以上	5回以上	100%	4	5回以上	100%	4	<ul style="list-style-type: none"> ○外部講師を招いた学習をカリキュラムに位置付け、計画的に実施している。(10回以上) ・生徒と保護者が同じ講演を聞き共に考えたり、意見を交わしたりする機会を設けたい。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務の縮減及びライフワークバランスの実現と働きがいのある職場づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日を部活休養日とし定時退校 ・業務の精選とスクラップ&ビルド ・勤務時間管理の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務時間の上限(1か月45時間、1年360時間以内) ・ライフワークバランス 肯定的割合(90%) ・職員の働きがい 肯定的割合(90%) 	90	86.1	96%	3	80	89%	3	<ul style="list-style-type: none"> ○1か月45時間以内の達成率100%(中間評価時と同値) ●ライフワークバランスのアンケート肯定的回答率70%(中間評価時より13.3%減) ●働きがい(やりがいと充実感)のアンケート肯定的回答率70%(中間評価時より5%減)

※達成度(%)=達成値÷目標値×100

※評価 4:100%以上(目標以上達成できている)

3:80%以上(目標を達成できている)

2:60%以上(目標をやや達成できていない)

1:60%未満(目標を達成できていない)